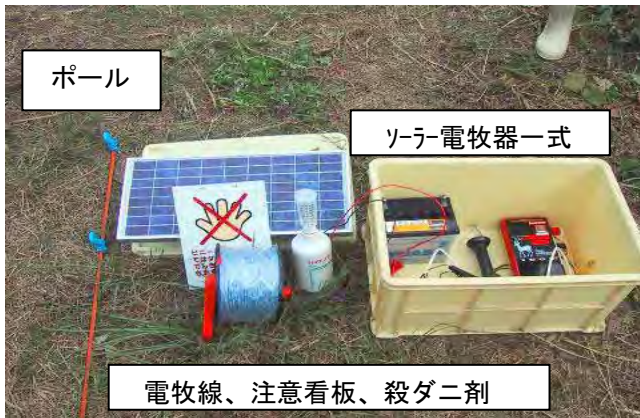


電気柵を使った牛の放牧で耕作放棄地の解消しよう！

耕作放棄地は、イノシシにとって絶好の隠れ場所で、イノシシの食料となるクズ等が豊富にあります。耕作放棄地を解消し、イノシシが本来住んでいる山と農地との距離を遠ざけることにより、イノシシの被害が出にくくなると言われています。

そこで、畜産サイドでは、平成13年から耕作放棄地の解消とイノシシ侵入防止に効果的な放牧（山口型放牧）に取り組み、「いつでも、どこでも、だれでも、簡単に」できるようなシステムを作っています。山口県の耕作放棄地での放牧面積は、畜産農家の努力により平成15年度の30haから平成18年度には91haにまで拡大しています。

放牧施設



（ソーラー電牧器一式）



（飲水施設一式）

放牧状況



放牧頭数2頭、面積25a、日数35日



左と同じ場所ですが、今はどこが耕作放棄地であったか分かりません。（柳井市提供）

山口型移動放牧のことはお近くの

農林事務所畜産部若しくは山口県農林水産部畜産振興課、山口県農林総合技術センター畜産技術部、(社)山口県畜産振興協会へお問い合わせください。